

若者の居場所づくりシンポジウム

基調講演：若新雄純氏（鯖江市 JK 課プロデューサー）
高校生：木村俊哉（石巻高校1年/女川向学館マイプロチーム）
鈴木元哉（石巻高校1年/女川向学館マイプロチーム）

日時：平成27年3月26日（木）
午後5時30分～午後8時00分
場所：復興まちづくり情報交流館

◆概要◆

福井県鯖江市で課員が全員女子高生という「JK 課」をプロデュースした若新氏をお招きし、若者が活きる「やわらかい居場所」づくりをテーマに、講演していただきました。

若新氏は「ニート株式会社」や「ゆるい就活」など、型にこだわらない開放的な居場所をプロデュースしています。JK 課では、女子高校生が交通費なし、給料なしで集まり、ありのままに議論ができる解放的な居場所で様々な企画をしています。

講演の後は、地元の高校生が新たな町の若者の居場所づくりについて提案発表をしました。若新氏と高校生のトークセッションでは提案に対して、「一緒にできること」「一緒にやってみたいこと」について意見を出し合い、大人と高校生と一緒に楽しみながら取り組めるように環境づくりをしてもらいました。

◆基調講演◆

テーマ：若者が活きる「やわらかい居場所」づくり
講演者：若新雄純氏（鯖江市 JK 課プロデューサー、慶應義塾大学特任助教）

【今という時代における新たなスタイルの模索】

- ・リスクを取って、実験している。
 - 新たなスタイルについて結論は分からないが、その答えはこれからの時代を生きていく人しか分からない。そのような人々が、そのスタイルを模索していくためのサービスを提供している。
- ・現在は、定められた型としてのスタイルにこだわりすぎている。
 - 就職活動を例にすると、本来、就職は入社した後の方が大切であるにもかかわらず、その入口が複雑過ぎて、それだけで苦労してしまう学生が多い。
 - 型としてのスタイルにこだわることなく、その入口をやわらかくした方がよいのではないか。

【新たなスタイルの事例】

- ①レンタルニート
 - ・自分がやりたいと思ったことができるサービス
 - ・この事業に集まってくる若者たちが求めている価値観に即した事業
 - 妥当な結論ではなく自分自身が納得すること
 - 誰かに判断を任せるのではなく自分自身の意見を言い切ること
- ②週3日働いて週4日休むという事業形態を提供するサービス
 - ・働き方に関する価値観の変容
 - 短い時間で効率よく働くということに移行していくべきという時代の要請
 - 賃金や福利厚生といったサービスをこれ以上上げられないから、仕事だけではなく、余暇に

よって人生を充実させていく必要性

- ・ 高学歴の人が本サービスに集まってくる傾向
優良企業に入ったものの、余暇の方に重点を置きたいということで集まってくる
→高いレベルでの教養があるからこそ、既存の価値観に対して疑問をもつ

③就活アウトロー

- ・ 既卒の29歳以下であり、現在の就職システムに疑問を持っている若者というマニアックな人々を対象に、マッチングを行うサービス

④ナルシスト採用

- ・ 現在の一般的な社会システムに違和感をもっており、こだわりが強い等の既存の価値観では収まりきらないような若者を対象に、マッチングを行うサービス
- ・ 既存の価値観に収まらない若者が対象のため、いわゆる研修や教育を一切行わない
→一人ひとりの成長を信じて向き合っていけることができれば、十分に社会に適応して活躍できる可能性がある

⑤くじ引きと占いを活用したマッチング

- より一層、その学生の本質に迫ることができるように、型としてのスタイルにとらわれることのないスタイルの模索

【やわらかい居場所 鯖江市 JK 課の例】

①鯖江市 JK 課発足の背景

- ・ 自治体独自の事業に積極的に取り組んできていた鯖江市
→市民協働や、国や県とは違う独自の事業の模索（800のうち450は独自事業）
- ・ 価値観の多様化と複雑化により、皆で試行錯誤しながら進めていくことの重要性

②鯖江市 JK 課の取組み

- ・ 今まで普通に生活をしてきて、まちづくりに興味もなかったような女子高生が、彼女たちの目線でやりたいように活動していく事業
- ・ 講義や研修会は一切やっていない
→大人が答えを示さないことで、彼女たち自身が考える必要性を認識する
→大人も女子高生と同じ目線で並走することにより、変わっていくことができる
→女子高生のやわらかい居場所を大切にすること

③やわらかい居場所

- ・ 大人のルールではなく、女子高生のスタイルで自由に話をすればよい
→大人がそのスタイルを尊重することによって、互いの信頼関係を築くことになる
- ・ 本当に耳を傾けなければいけない人の声は、ごく自然な、日常的な関わり合いの中にあるもの
→いかに、彼女たちがリラックスした状態で、自由に自分たちの思っていることを話せるような環境を整えることができるか
→本活動の意義と本質を大切にすること＝大人が、女子高生のやわらかい居場所をじゃましないということ

④大人への影響

- ・ 女子高生が自由に発言できる活動に対して、大人たちも開放感を感じた
→やるなら市民が皆楽しめるものをやろうということで、大人たちものってきた
→妥当かどうかではなく、大人たちもやりたくなってきた



◆高校生による“若者の居場所づくり”の提案発表◆

平成 26 年 11 月に KAERU CAMP が開催され、町外の高校生が、女川町の仮設住宅の問題やプロムナードでの取組みについて提案しました。平成 27 年 2 月には、地元の高校生による女川向学館マイプロジェクトチームが、「新しい駅前を使って子どもの課題を解決せよ!!」をテーマに、自分たちの主体的な取組みを提案しました。

3 月 7 日、8 日に「まちびらき直前合同合宿 ～新生・女川ノ課題ヲ解決セヨ～」を開催し、町内外の高校生の提案を融合し、具体化した結果を発表しました。

テーマ①：若者の居場所づくり（発表者：木村俊哉）

KAERU CAMP で提案した”こどな HOUSE”の実現に向け、その第 1 弾としてマイプロチームが提案した”駄菓子屋”を実施します。駄菓子屋は移動式にして、町内の子どもたちが集まれるような場所をつくりたい。

テーマ②：まちなかの賑わい創出（発表者：鈴木元哉）

震災以降、女川高校が閉校し、町内で高校生による文化祭が行われていない。高校生プロデュースの文化祭とロックフェスを開催し、高校生だけではなく大人も参加できる楽しいイベントにしたい。11 月には町民文化祭を開催しているので、それに合わせて開催すれば相乗効果がある。



◆若新雄純氏×高校生 トークセッション◆

2つの提案を踏まえ、「一緒にできること」と「一緒にやりたいこと」について意見出しをしました。

テーマ①：若者の居場所づくり（移動式駄菓子屋）

一緒にできること		一緒にやりたいこと	
人を集める	<ul style="list-style-type: none"> ・Face book で告知 ・県外から人を呼んでくれる ・チラシづくり ・自分の子どもに何が食べたいか聞いてみる など 	運営	<ul style="list-style-type: none"> ・出資する ・プロムナード近辺に専用の場所 ・まつり ・昔の遊びと今の遊びを対決
スキル提供	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜を集めてくる ・移動車（リアカー）を運転する ・昔の遊びの先生 ・昔の駄菓子屋の思い出話をする など 	大人も楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・居酒屋（バー）を併設 ・夜の部・大人の駄菓子屋 ・デザイナーを探してくる
コンテンツ提供	<ul style="list-style-type: none"> ・場所借り（役場から） ・テキ屋 ・たい焼き器を持っている人を紹介できるかも ・超でかいもんじゃ焼きを作る ・駄菓子のアイデアをどんどん出すなど 	子どもの頃に帰りたい	<ul style="list-style-type: none"> ・型抜きをやりたい ・わたあめづくり ・焼き芋を焼きたい ・ゆぼっぼで駄菓子を売りたい
自己参加	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に遊びに行く ・お客になる など 	出張・ツアー	<ul style="list-style-type: none"> ・町外に出張 ・駄菓子屋ツアーをやる
収益・商売	<ul style="list-style-type: none"> ・買い占める ・値段をつける など 	特色	<ul style="list-style-type: none"> ・カード大会 ・くじ引き付き駄菓子 ・まずい駄菓子を売る ・プレミアム（高額）駄菓子を売る ・品物の値段を一律 10 円（5 円）で売る

テーマ②：まちなかの賑わい創出（文化祭×ロックフェス）

一緒にできること		一緒にやりたいこと	
場所提供	<ul style="list-style-type: none"> ・場所の提供 ・町民文化祭と一緒にやる 	うたう	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでダンス ・みんなで歌う ・アニソン大会 ・テーマソングをつくる
食	<ul style="list-style-type: none"> ・食材の提供 ・メニューをつくる 	ライブ	<ul style="list-style-type: none"> ・プチ演奏会をする ・ライブスタッフをやりたい
出店	<ul style="list-style-type: none"> ・金魚を育てて金魚すくい ・メダカすくい 	参加・集客	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生をたくさん集める ・小学生も参加させる ・中学生も参加させる
実施・サポート	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り・お手伝い ・協力者をさがす ・応援する ・呼び込み・周知 	食べる	<ul style="list-style-type: none"> ・屋台を出す ・うちのおばあちゃん、お母さんの絶品おかずを一品提供 ・女川の美味しいものを売る

	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんを呼ぶ ・当日の運営の手助け ・資金・スポンサー 		<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでバーベキュー ・美味しいものを食べる ・ビールを飲む
ものづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器づくり ・オリジナルTシャツ 	コスプレ	<ul style="list-style-type: none"> ・コスプレ ・学生服を着る
		イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚式をする ・銀鮭釣り ・クイズ大会 ・フィーリングカップル5対5 ・昔ミスコン（私も昔は可愛かった） ・うちの嫁自慢コンテスト

【高校生とのトークセッション】

- ・大人に対しての要望は？
 - 高校生は子どもに見られる。酒やタバコが禁止されている、規制に縛られているためだと思う。自分たちが主体的に活動してみたい。
- ・文化祭のアイデアについて、震災前は女川高校で行っていたのか？
 - 震災前は小学生だったので、あまり記憶がない。震災後は石巻高校に見に行ったが、とても面白かったので、是非、女川でもやってみたいと思った。
- ・文化祭で大人から「わたあめづくり」をやりたいことの提案があったが、どう思う？
 - 大人がそのように思っているのは、意外だった。
- ・大人が単に意見するだけだと、高校生の自由な発想は萎んでしまうので、自分たちが当事者に近づくことで、大人から自由な発想が引き出せる。なので、イベントについて大人に意見を聞くのではなく、大人にやりたいことを任せるなど、大人にやりたいことを聞いて、大人を巻き込んだイベントにすると面白くなると思う。

